

令和五年度南島原市 × 西南学院大学博物館連携
世界遺産登録五周年記念特別展Ⅱ

原城の記憶

延岡藩・有馬氏の攻防

令和6年 2/10(土) >>> 3/10(日)

南島原市有馬キリシタン遺産記念館
企画展示室

主催：南島原市、西南学院大学博物館

画像上：「原之城御陣取」（南島原市教育委員会所蔵）

下：「肥前高来郡原城之図」（南島原市教育委員会所蔵）



記念館 X(旧Twitter)



記念館 Instagram



交通アクセス



2023年
世界文化遺産登録5周年
長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産



西南学院大学博物館
産官学連携事業



南島原市

西南学院大学

後世に残された記録から原城の記憶をたどる

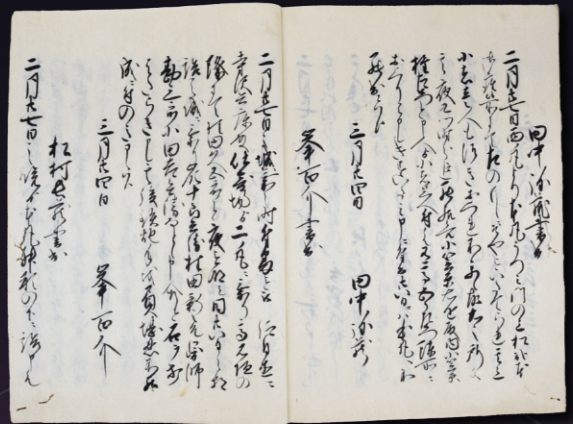
寛永15年(1638)2月27日、28日、原城は約12万の幕府軍によって陥落し、島原・天草一揆は終結した。一揆の際、幕府軍側で出陣していた延岡藩・有馬氏は、かつて島原地域の領主であった。

天正7年(1579)にイエズス会巡察師ヴァリニャーノが口之津(南島原市)を訪れると、日野江藩主・有馬晴信はキリシタン大名となり、島原領内にはキリスト教が広まっていた。

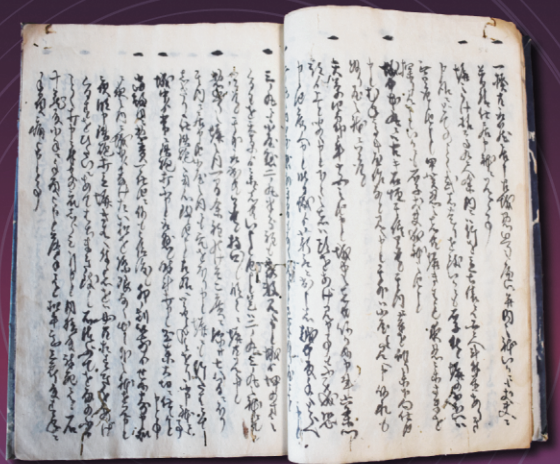
しかし天正15年(1587)に豊臣秀吉による伴天連追放令が出されると日本は禁教の時代に向かっていく。晴信は信仰を続けたが、慶長17年(1612)岡本大八事件に連座し失脚した。

晴信と岡本大八がキリシタンであったことから幕府は全国へ禁教令を広めていくこととなる。晴信の子、直純は島原の領地を引き継ぎ、キリシタン弾圧を行うも、進まず、慶長19年(1614)延岡へ移った。

約20年後、有馬の地で島原・天草一揆は勃発した。有馬氏の旧領地であり、一揆勢にはかつての家臣も含まれていたことから、有馬氏は幕府上使の案内や城内の一揆勢との交渉の役目を担った。本展覧会では延岡藩・有馬氏の記録や後世の記録、原城跡の遺構から、原城での激しい攻防戦や幕府から見た原城の守りを紹介する。



『原之城乗吟味帳』
(南島原市教育委員会所蔵)



『寛永嶋原騒動記 岡山藩聞書』
(日本二十六聖人記念館所蔵)



『肥前島原記』天
(西南学院大学博物館所蔵)

原城跡は世界遺産に登録されて、5周年を迎えました。

南島原市有馬キリシタン遺産記念館 Minamishimabara City Arima Christian Heritage Museum

〒859-2412 長崎県南島原市南有馬町乙1395
 開館時間 | 9時～18時
 休館日 | 毎週木曜日
 入館料 | 一般300円 高校生200円 小・中学生150円(常設展示も観覧可)
 電話 | 0957-85-3217 メール | arimamuseum3217@gmail.com

